

平成30年度



# 白川小だより

第8号 平成30年10月30日(火)

「感性を磨き、豊かな情操を養う」～アートワークショップを通して～

校長 奥村 哲也

10月15日(月)と22日(月)の2回にわたって、「アートワークショップ(芸術活動)」が行われました。東京藝術大学教授の林武史先生にご指導いただきながら、本校の図工室で、1～4年生が「海中庭園作り」に取り組みました。林先生は、岐阜市出身の彫刻家で、2010年に笹平高原にアトリエを開設したことが縁となって、白川町内の小学校で芸術活動を支援してくださっています。

活動前半は、8色のビニールテープを使って教室全体を「海」にしました。子ども達はテープを伸ばしながら自由に教室の中を歩き回ります。テープはどんどん重なり、教室中にはりめぐらされ、さらに、テープを垂れ下げたり縛ったりすると海底を思わせる不思議な空間が生まれました。後半は、タコやクラゲなど海の生き物たちをビニール袋の泡の中に入れて浮かべたり、段ボールのくじらや船に色つけをしたりし、楽しい海中庭園が完成しました。子ども達は「完成した形をイメージして動く」というのではなく、「思うまま、体の向くままに動いたら、すごい作品ができあがっていた」という様子でした。



林先生は、「活動する中で『感性』が磨かれ、『創造力』が高まります。『磨かれた感性』や『創造への意欲』は、子ども達のこれからの生き方につながることでしょう。」と話してみえました。小学校の図画工作科の目標は、「感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」ことです。小学生のこの時期に感性を磨くことは、子ども達のより豊かな人生につながります。

子ども達にとって、「感性が磨かれる機会」は身近な生活の中にもあるのではないのでしょうか。今回のような造形的な活動でなくても、美しいもの、崇高なものに触れることで感性は磨かれます。帰り道でちょっと足を止めて真っ赤な夕焼け空と一緒に眺める、黄色く色づいたイチョウの木の下で落ちてくる葉っぱを受け止める、拾ったドングリを転がして一緒に遊ぶ…こうした時間を子ども達と共有することで、感性が磨かれ、豊かな情操が養われていくと思います。子ども達の人生がより豊かなものになることを願っています。